

令和5年度第3回防府警察署協議会会議録

開催日時	令和6年2月2日（金） 午後1時30分から午後3時10分までの間	
開催場所	防府警察署3階 講堂	
出席者	委員	塚原委員、藤村委員、東福委員、竹並委員、浅井委員 杉本委員、中司委員、佐戸委員、池永委員、室田委員 計10人
	警察署	副署長、主幹、警務課長、警察安全相談課長 生活安全課長、地域課長、刑事第一課長、刑事第二課長 交通課長、警備課長 計10人
議題	1 業務説明 2 交通事故抑止対策の推進	
<p>1 会長挨拶 令和5年度第3回目の協議会開催に当たり、皆様にはお忙しい中お集まりいただき、また、リモート参加の委員に対しても感謝申し上げます。今回、初のリモート会議となったが、実り多い協議会となるよう皆様のご協力をお願いします。</p> <p>2 副署長挨拶 (省略)</p> <p>3 業務推進状況の説明（副署長） 令和5年中の業務推進状況と推進計画について、以下の項目に沿ってパワーポイントで説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 犯罪抑止対策の推進状況 (2) 少年非行の現況 (3) 悪質重要犯罪の徹底検挙 (4) 交通死亡事故抑止総合対策の推進 (5) 地域安全活動の推進 <p>4 質疑・応答 (委員) うそ電話詐欺や電子マネーの被害について説明があったが、電子マネーの購入</p>		

先であるコンビニエンスストアの店員や経営者に対し、警察から注意喚起をしているのか。

(副署長)

電子マネー購入場所への対策は進めており、コンビニエンスストアから多大な協力を得ている。店員の声かけで被害を阻止した事例は多く、そうしたときには署長から感謝状を贈呈するなどしている。

レジの液晶画面に「これは詐欺ではありませんか」などと注意喚起の表示を出したり、注意喚起を促すポップなどを置いてもらったりしている。

そのほかにも、各店舗に依頼し、電子マネー購入者に対する声かけ訓練を行うとともに、テレビなどでうそ電話詐欺の手口を紹介するなど、広報啓発に努めている。

5 諮問事項説明（交通課長）

交通事故抑止対策の推進について、以下の項目に沿ってパワーポイントで説明を行った。

- (1) 交通事故発生状況
- (2) 交通事故抑止に向けた各種取組
 - ア 高齢者の交通事故防止対策
 - イ 横断歩道の安全対策
 - ウ 自転車等総合対策
 - エ 速度抑制対策
 - オ 反射材・ハイビームの活用促進

6 協議

(委員)

交通事故の事例など、具体的な事故状況を多くの人に知ってもらえれば、危険予知能力が身につくのではないか。

(交通課長)

現場講習会では、できる限り具体的な事故状況を説明するようにしている。

また、安全運転管理者講習においても、実際の映像や画像などを使用して、具体的に交通事故の状況を説明している。

(委員)

交通事故は、ヒューマンエラーをどれだけ減らすかにかかっていると思う。

令和5年中の物損事故の発生件数が昨年より増加しているが、発生状況をどのように分析しているのか。

(交通課長)

交通事故の当事者については、歩行者は65歳以上が多く、車両使用であれば若年ドライバーが多い。また、自転車利用であれば高校生が多くなる。

発生時間帯で見ると、出勤時と退勤時の交通事故が多い傾向にある。

(委員)

高齢者の事故が多いことについて、春先に民生委員が高齢者を訪問する機会があるので、警察と民生委員で連携し、注意喚起したらどうか。

また視認性を良くするため、光が反射する道路標示を導入したらどうか。

ほかにも、ハンドサインが一般の方、特に高齢者に周知されておらず、ハンドサインの意識が低いと感じる。地区の役員に働きかけて交通安全講習を行えば、少しでも意識付けを図れるのではないか。

(交通課長)

警察も一緒に戸別訪問するなど、民生委員との連携を検討していきたい。

道路標示については、要望が多いところを優先しつつ、予算面なども考慮しながら道路管理者と検討していきたい。

ハンドサインは、山口県警のYouTubeチャンネルなどを活用し、周知したいと考えている。

(委員)

高齢者が免許を返納しやすい環境になれば、返納も進むのではないかと思うが、現在の免許返納の件数はどうか。

(交通課長)

免許返納数の推移を見ると、緩やかな減少傾向にある。

(委員)

朝方、警察官が交差点に立っているのを見かけるが、スピードを抑制しようという気持ちになるので、今後もこうした活動を続けてほしい。

(交通課長)

交通安全日として、毎月1日と15日に警察官が交通立哨しており、今後も継続していく。

(委員)

あくまでも個人的な意見であるが、「地区ごとに交通安全講習会を義務付ける」「踏み間違い防止機能付きの車を義務付ける」「免許証を返納しやすい環境を構築するためのバスルートを確認する」「自転車のルールやマナー向上のため、自転車の免許制度と交通違反の罰金を導入する」など、厳しい制度を検討してもよいのではないか。

(交通課長)

現状、交通安全講習は、自治会、老人会、介護予防事業所、シルバーセンターなどで行っている。

安全サポート機能の義務化は、すぐにとという話にはならないので、警察署から警察本部、警察庁、そして国へと段階を踏みながら、声を上げていくしかない。

バスルートの確保については、防府市の地域公共交通活性化協議会の会議の場で、バス事業者や各関係機関・団体へ意見を出している。

自転車の取締りは、警察庁において、交通反則切符を適用して反則金を徴収するための法整備を検討している。

(委員)

高齢者マークを付けた車が、急に速度が遅くなったり、ウインカーとは逆方向に曲がったりすることがあるが、どのように対応すればよいのか。

(交通課長)

危険な運転をする車を目撃した場合は、通報していただければ、警察が対応する。

(委員)

夜間の外出の際は反射タスキをかけているが、手や足等の動くところに着用すると効果的であることが分かった。こうしたことを周囲の人にも伝えたいと思う。

(委員)

交通安全についてインターネットで調べたところ、「補償運転」という言葉が出てきた。加齢による運動能力低下を補うため、自分の体調や運転能力、天気や明るさ、道路状況などを考慮し、危ない場面を避けて運転するというものであった。補償運転を広報することで、高齢者が加害者となる事故を減らすことができるのではないか。

自転車の交通ルールやマナーについては、学校でも自転車教室を行って指導しているが、学校任せにするのではなく、保護者にも指導していただきたい。

(交通課長)

補償運転は、交通安全講習などの機会に紹介したいと思う。

保護者が自転車のルールやマナーを指導すべきだということであるが、仮入学の際、保護者に自転車ルールなどの指導をするので、参考にさせていただきたい。

(委員)

私は夕方に犬の散歩をしているが、その際、車の交通違反をよく見かける。

こうした違反は現行犯でなければいけないのだろうか。例えば、違反の様子を動画に撮っても、検挙できないのか。交通ルールを守らない人が多いと感じているので、警察にはどんどん検挙してほしい。

免許返納については、家族で話し合うべき事柄ではないだろうか。

(交通課長)

交通違反は、現行犯による検挙だけではないが、一般の方が動画を撮ったりするとトラブルになる可能性もあるので、警察としては避けていただきたい。今後とも、関係課と連携して交通指導取締りに取り組んでまいります。

高齢者の免許返納を家庭で話し合う場合、「家族に言われたから返納しない。」と逆に意固地になってしまうこともある。そうしたときは、家族の方から警察に相談してもらえれば、介入することができる。

(委員)

少子高齢化の影響で、高齢者の割合が増えている。高齢者に社会参加してもらい、生涯にわたり充実した生活を送っていただきたいと思うのは、皆の一致した意見だと思う。免許返納の方法や返納した場合のサポートなど、いろいろと知恵を出していかなければならない。

車両を5台以上保有している事業所では、安全運転管理者講習を受けたり、アルコールチェックをしたりしているが、個人事業主の場合、講習を受講することもなく、広報が行き届いていないのではないか。こうした個人事業主に対して、どのようにアナウンスしていくのか。

また、高校生のヘルメット着用率が低いと聞いたが、今後どのような取組をしていくのか。

(交通課長)

安全運転管理者の選任が不要な事業者については、個別に指導していくこととしているが、危険な運転を目撃した場合には、通報していただければ、その都度対処していく。

高校生のヘルメット着用については、夏休み等の前に、先生方から交通事故防止に関する指導を行っていただいております。生徒に対する自転車教室などでも継続的に話をしている。また、校則でヘルメット着用を義務化する方向と聞いている。山口県警のYouTubeチャンネルでは、ヘルメット着用に関する動画を投稿しているので、ぜひ委員にも観ていただきたい。

(副署長) 総括

様々なご意見を頂いたが、これらを参考に、より良い警察活動となるよう考えてまいりたい。

7 配付資料

- 警察署協議会資料
- 諮問事項資料